



きよせ市議会だより

平成十六年度の

決算を認定

平成17年
第4回定例会

平成十七年清瀬市議会第四回定例会は、十二月二日(金)から二十日(火)までの十九日間
の会期で開催しました。

今定例会では、平成十六年度清瀬市一般会計決算及び国民健康保険事業、老人保健医療、
水道事業、駐車場事業、介護保険、受託水道事業の各特別会計決算に関する議案の他、市長提
出議案(補正予算・条例等)二十一件、議員提出議案(意見書等)十件、市民の皆様から提出
された請願・陳情三件を審議しました。

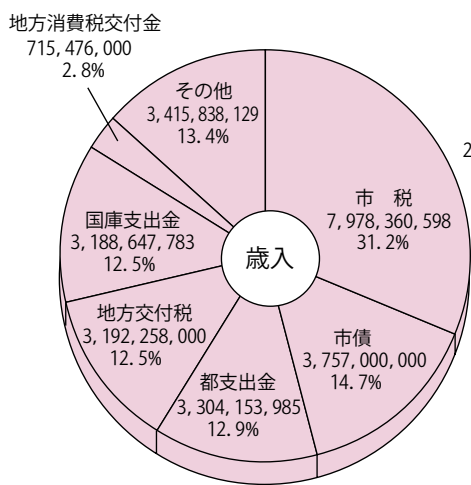
なお、平成十六年度清瀬市一般会計決算及び各特別会計決算に関する議案は、十一月に開催
した決算特別委員会及び所管の常任委員会において、それぞれ審査が終わっていることから第
四回定例会の初日に、委員長の審査報告を受け、採決を行った結果、平成十六年度決算はいず
れも認定されました。



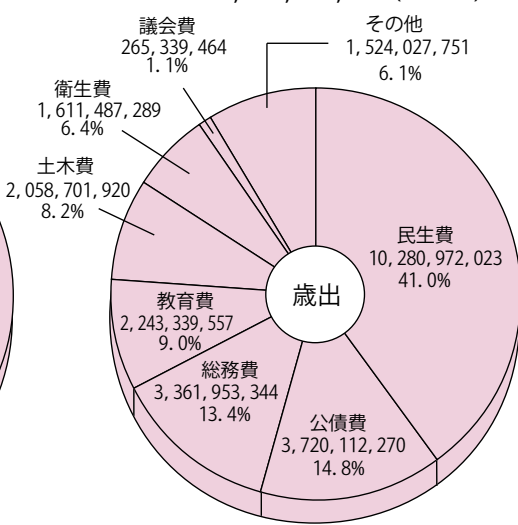
平成18年1月8日 成人式にて

款別決算額比較表(単位:円)

歳入決算額
25,551,734,495 (100%)



歳出決算額
25,065,933,618 (100%)



一般会計歳入歳出決算内訳

平成十六年度清瀬市一般会計の決算は、歳入決算額二五
億五七三万四九五四円、歳出決算額二五〇億六五九三万三
六一八円で決算残額は、四億八五八〇万八七七円となってい
ます。
翌年度への繰越額は、繰越明許費繰越額等がありませんの
で、実質繰越額は、決算残額と同額の四億八五八〇万八七七
円となり、昨年度に比べ四八九六万二七一円の減額となっ
ています。
また、標準財政規模に対する実質収支額の割合である実質
収支比率についても、前年が四・五%ですので、〇・五ポイ
ント下回る四・〇%となっています。
歳入の決算額は、予算額に対し五九三三万二五〇五円の減
額となりますが、予算に対する収入率は、九九・八%と、前
年度より一・一ポイント上回っています。また、歳出の決算
額は、予算額に対して九七・九%の支出率となり、前年度よ
り一・五ポイント上回っています。

決算のあらまし

平成十六年度 一般会計決算討論要旨

反対討論 日本共産党

〇四年度予算は、小泉改革
のもとで、地方交付税などが
5億円以上も減らされ、厳し
い状況の下で、乳幼児医療費
の助成制度の改善や四中学校舎
の大規模改修などが実施され
ましたが、財政危機を理由に、
就学援助認定基準の切り下げ、
修学旅行などへの補助金や寝
たきり高齢者へのおむつ代助
成など、福祉や教育施策が削
減、縮小されました。
私達は、財政がきびしくて

賛成討論 民主クラブ

平成十六年度は、第3次行
革の初年度に当たり小さな市
役所実現に向けての重要な年
であった。歳出では人件費、
物件費が減額したが、生活保
護費等が大きく伸び扶助費が
増加した。経常収支比率は、
94・4%、公債費比率は11・
3%で財政の硬直化改善の進
捗率はまだ低い。
主要な事業は、業績評価制
度の導入、清瀬みどり債の発
行、立科山荘に指定管理者制

賛成討論 公明党

国の三位一体改革が進み清
瀬市も大きな影響を受ける中
市財政の根幹である市税収入
は前年度に比べ5500万円
の減額となり80億円を割り込
むなど厳しい歳入状況となっ
た。一方で歳出は人件費で1
億1800万円の減額となっ
たものの民生費が大きく伸び
た事などにより4億8200
万円の増額となった。このよ
うな厳しい財政状況の中で児
童館のオープン、子ども家庭

も福祉増進が自治体の責任だ
との立場から財源も示し、補
助金復活を提案してきました
が、市長は決算で8億2千万
円も黒字になったのに、「財
源があれば基金に積み立てた
い」と拒否してきました。
また、〇四年度は、市立け
やき幼稚園の廃園に踏み出し、
市民健診や福祉タクシー、高
齢者の福祉電話も後退させる
などもしてきました。こうし
た決算には賛成できません。

支援センター開設、児童の安
全対策、みどり債の発行、立
科山荘の指定管理者制度導入
等多くの評価すべき事業展開
への努力がなされた。理事者
及び職員の皆様に労うと共に
今後一段と厳しくなるであろ
う国の三位一体改革の動向に
しっかりと目を凝らし市政の
舵取りを過たぬよう更なる行
財政改革を進めると共に安心
して住み続けられるまちづく
りを期待して賛成討論とする。